

公 民

1 学習指導の改善・充実

(1) 学習指導の改善・充実の視点

公民科においては、各科目の専門的な知識、概念や理論及び倫理的な諸価値や先哲の考え方などについて理解させるとともに、習得した知識や概念、技能などを用いて、各科目でまとめとしてそれぞれの特質に応じた諸課題について探究させることを通して、現代社会の諸事象について考察し、その内容を説明したり自分の考えを論述したりすることを通して、社会的事象についての見方や考え方を成長させるよう指導する必要がある。

(2) 学習指導の基本的な考え方

ア 現代社会

科目の導入において、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させ、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会に関わる現代社会の諸課題を取り上げて考察させる中でさらに理解を深めさせるとともに、科目のまとめとして議論などを通して自分の考えをまとめたり、説明したり、論述したりするなど課題を探究させる学習を行い、人間としての在り方生き方を探求させること。

イ 倫理

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、他者と共に生きる主体としての豊かな自己形成を図ることができるようにするため、人間としての在り方生き方への関心を高め、その手掛かりとしての先哲の考え方を取り上げて自分自身の判断基準を形成するために必要な倫理的な諸価値について理解と思索を深めるとともに、課題を探究する学習を一層重視し、論述や討論などの言語活動を充実させ、社会の一員としての自己の生き方を探求させること。

ウ 政治・経済

習得した知識、概念や理論などを活用し、持続可能な社会の形成という観点から課題を探究させ、政治や経済についての見方や考え方を身に付けさせる学習の一層の充実を図ることが必要である。その際、グローバル化や規制緩和の進展、司法の役割の増大などに対応して、法や金融などに関する内容の充実を図るとともに、国際政治において文化や宗教の多様性についても理解させること。

2 評価方法の改善・充実

(1) 学習評価の基本的な考え方

学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものである。各科目における生徒の学習状況を分析的に捉える観点別学習状況の評価と総括的に捉える評定とを、目標に準拠した評価として実施する必要がある。

学習評価を行うに当たっては、学校教育法や学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力等や、主体的に学習に取り組む態度に関する観点についても評価を行うなど、観点別学習状況の評価の充実を図り、きめ

の細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図っていく必要がある。

(2) 評価の観点及びその趣旨

学習指導要領を踏まえ、公民科の特性に応じた評価の観点及びその趣旨は次のとおりである。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代の社会と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。	現代の社会と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	現代の社会と人間に関わる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とに関わる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

(3) 公民科における学習指導と評価の考え方

ア 「関心・意欲・態度」について、例えば、「政治・経済」において、授業の導入として時事的な社会的事象を取り上げ、関心・意欲等を高めた上で授業を展開し、評価に当たっては表面的な状況のみに着目することのないよう留意するとともに、あらかじめ設定した評価規準に則して「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価することが大切である。

イ 「思考・判断・表現」について、例えば、「政治・経済」において、見いだした課題に関して、習得した知識、概念や理論などを活用してその本質や特質、対立点などを説明、論述させたり、討論を通じて自分や集団の考えを深めさせたりするなどの言語活動を取り入れた上で、評価に当たっては、ペーパーテストのみに依拠することなく、授業中に用いるワークシートなどへの記述内容の評価、発言内容や活動状況の観察などを加味して、生徒の学習状況を多面的に把握できるように工夫し、指導に生かすことが望まれる。

なお、学習評価の観点として新たに示された「思考・判断・表現」の「表現」は、思考、判断した過程や結果を言語活動等を通じていかに表出しているかを見取るものであり、「資料活用の技能」は、これまで「資料活用の技能・表現」として評価されていた「表現」の内容を含むものであることに留意すること。

ウ 「資料活用の技能」について、例えば、「倫理」において、言語活動の充実を求める公民科の改善事項を踏まえ、積極的に資料を活用した学習の工夫や、先哲の資料から情報を収集・選択し読み取り、それらを用いて図表にしたりレポートにまとめたりするなど主体的に探究する学習をあらゆる機会に展開し、適切に評価する必要がある。

エ 「知識・理解」について、例えば、「現代社会」において、「(1) 私たちの生きる社会」の学習の際に、習得させる知識や概念は多くあるが、単なる個別・具体的知識の評価に終わらせないよう工夫し、「幸福、正義、公正」の習得状況について評価するとともに、「おおむね満足できる」状況に達していない生徒に対して手立てを講じることにより、「(2) 現代社会と人間としての在り方生き方」以降の学習を円滑に進めることなどが考えられる。

3 学習評価の具体例

(1) 「現代社会」の学習評価の例

【単元の指導計画の例】(一部)				
単元名	現代の経済社会と経済活動の在り方(9時間)			
単元の目標	現代の経済社会の変容などに触れながら、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	現代の経済社会における個人や企業、政府の経済活動の在り方について考察しようとしている。	個人や企業は社会を構成する一員として経済活動において役割を担い、法的責任のみならず社会的責任を担っていることについて幸福、正義、公正などを用いて多面的・多角的に考察し、個人や企業の経済活動の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	収集した資料の中から個人や企業、政府の役割と責任、経済活動の在り方についての学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の経済社会の変容、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融、経済成長や景気変動と国民福祉の向上、雇用、労働問題、社会保障、公害の防止と環境保全について理解し、その知識を身に付けている。
時程	学習活動	評価の観点 関 思 技 知		学習活動における評価規準
				評価方法
【本時のねらい】 近年の雇用や労働問題の動向を、経済社会の変化等の観点から理解を深めさせ、終身雇用制度や年功序列制度などの制度の変化等と関連させながら雇用の在り方について関心を高めさせる。				
第8時	・諸資料を読み、幸福、公正、正義などを用いて雇用の在り方について考察しワークシートにまとめる。	◎		・現代の経済社会における個人や企業、政府の経済活動の在り方について関心を高め、考察しようとしている。 ・ワークシート
		※本時の評価の観点は「関」とした。		※学習内容と関連付けながら資料等を読ませ、幸福、公正、正義を用いて雇用の在り方について考察させることをねらいとしたワークシート
※関心・意欲・態度の評価の実際				
【ワークシートの例と「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例】				
1 教科書〇〇ページ(現代の雇用・労働問題)を見て、次の問に答えなさい。				
(1) 教科書のグラフ(年間総労働時間の国際比較)を見て、気付いたことを書いてみよう。				
<ul style="list-style-type: none"> 日本の年間労働総時間は、1985年以降減っているが、2010年で2000時間ほどで、他の先進国と比べると、最も多い。 所定外労働時間を除くとアメリカやイギリスとあまり変わらない。 				
(2) (1)の背景や要因として考えられることを、企業と労働者の幸福から書いてみよう。				
①企業の「幸福」		②労働者の「幸福」		
<ul style="list-style-type: none"> リストラや労働賃金削減などの経費削減による利益の追求 国際的競争における優位 		<ul style="list-style-type: none"> 所定外労働に対して賃金を得ること 仕事と自分の生活の調和がとれること 		
③公正の立場からの解決策(企業側)		④公正の立場からの解決策(労働者側)		
<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化、削減 会社の情報を労働者に公開 		<ul style="list-style-type: none"> 業務の計画的推進 会社への要求 		
⑤両者にとって望ましい解決策と考えられること				
<ul style="list-style-type: none"> 会社の存続はそれぞれに共通の目的としながら、労働者が労働時間を調整できるフレックスタイム制や変形労働時間制を企業が導入したり、業務改善のしきみをつくったりする。 				
<ul style="list-style-type: none"> ●1(1)について、教科書から情報を読み取り、適切にまとめようとしている。 ●1(2)について、幸福、公正、正義を用いて考察しようとしている。 				
【「十分満足できる」状況(A)と判断される例】				
○「1(2)⑤」への生徒の記載例				
<p>企業と労働者の幸福から考えると、企業の存続がそれぞれの幸福の前提になり、それぞれの状況についてお互いに理解を図ることが大切である。</p> <p>そのために、企業が、フレックスタイム制を導入したり、業務の改善、効率化を図るために意見を集めるしきみを設けたりする。労働者側は、ライフ・ワーク・バランスを意識したり、業務の効率化のためのアイデアを出したりする。</p> <p>●企業と労働者双方の立場に関心を向け、多面的・多角的に考察しようとしている。</p>				
【「努力を要する」状況(C)と判断される例と指導の手立て】				
○「2」への記載例				
<ul style="list-style-type: none"> 企業は労働者を大切にすべきだと思う。 <p>●労働者の立場だけにしか着目せず、一般的な感想となっている。</p>				
■指導の手立て				
<p>企業の幸福の立場から考えると状況がどのように見えるのか等、それぞれの立場を理解させつつ、両者に配慮した解決策について考えさせる。</p>				

(2) 「倫理」の学習評価の例

【単元の指導計画の例】(一部)							
単元名	国際社会に生きる日本人としての自覚 (10時間)						
単元の目標	日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己との関わりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深めさせる。						
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解			
評価規準	古来の日本人の考え方や代表的な日本の先哲の思想を手掛かりとして国際社会に生きる主体性ある日本人としての在り方生き方について考えようとしている。	我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己との関わりにおいて日本人にみられるものの見方や考え方の特質につながる課題を見いだしている。	古事記、日本書紀、万葉集などにみられる我が国の風土や伝統、及び仏教や儒教、西洋の思想や文化などの外来思想の受容に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。	仏教や儒教、西洋の思想や文化などに見られる外来思想の受容について、自己との関わりにおいて日本人に見られるものの見方・考え方とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。			
時程	学習活動	評価の観点				学習活動における評価規準	評価方法
		関	思	技	知		
<p>【本時のねらい】</p> <p>林羅山と中江藤樹の思想を時代背景と関連付けながら理解させ、それらに見られる日本人のものの見方や考え方の特質につながる課題を、自己との関わりにおいて見いださせる。</p>							
第4時	<ul style="list-style-type: none"> 林羅山と中江藤樹の思想について教師の説明を聞き、ワークシートの質問について記入する。 諸資料を読み、日本人の見方や考え方の特質を、自己との関わりにおいて考察しワークシートに記入する。 	◎	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 林羅山と中江藤樹の思想について幕藩体制の展開という時代背景と関連付けながら理解している。 諸資料を読み、日本人の見方や考え方の特質を、自己との関わりにおいて考察し、適切に表現している。 	・ワークシート

※本時の評価の観点は2つとした。

※学習内容と関連付けながら資料を読み、日本人のものの見方や考え方の特質につながるものを自己との関わりから見いださせることをねらいとしたワークシート

※思考・判断・表現及び知識・理解の評価の実際

【ワークシートの例と「おおむね満足できる」状況 (B) と判断される例】

1 教科書○○ページ、資料集○○ページ (朱子学と陽明学) を見て、次の間に答えなさい。

(1) 林羅山と中江藤樹はそれぞれどのような境遇だったか、それぞれ簡潔に書いてみよう。

林羅山：幕府に仕えた儒学者	中江藤樹：武士の身分を捨て農村で生活する儒学者
---------------	-------------------------

(2) 林羅山の功績は、どのようなものだったか、書いてみよう。

朱子学の立場から幕藩体制の理論的基礎付けを果たし、朱子学が幕府の学問となる基礎をつかった。

(3) 中江藤樹の説く「孝」について、「親孝行」との違いを明確にしながら書いてみよう。

「孝」とは、父母を大切にす親孝行だけを意味するのではなく、親から祖先へ、さらに宇宙の生命の根源にまでさかのぼって、自分をこの世に生み出し、はぐくんだものに感謝する心を意味する。

2 林羅山と中江藤樹の思想が日本人の見方や考え方の特質につながる課題について、自分と関連させて書いてみよう。

部活動における、先輩は年上だから敬われるべきだという考え方は、林羅山の「上下定分の理」に関連があるように思った。また、先輩は、後輩を育てる行為を行うから尊敬されるのであり、そのような行為は中江藤樹の言う「孝」なのではないだろうか。

● 1 (1)～(3)について、教科書等から情報を読み取りまとめている。【知識・理解】

● 2について、特質を見だし、自己と関連させて適切に表現している。【思考・判断・表現】

【「十分満足できる」状況 (A) と判断される例】

○ 「2」への生徒の記載例

林羅山の「上下定分の理」の考え方は、社会秩序と人間関係を重んじる日本人の考え方に大きな影響を与えているように思う。中江藤樹は、人の立場や時と場所に応じた臨機応変な対応を求めながら、人を愛する「孝」を道徳の根本においた、自分の行うべきことに全力を尽くすことに美しさを見いだす日本人の特質につながっているように考えられる。

● 思想を自分との関わりにおいて理解し、考察を深めている。【思考・判断・表現】

【「努力を要する」状況 (C) と判断される例と指導の手立て】

○ 「2」への記載例

立派な思想だと思った。

● 一般的な感想に終わり、具体的に自分と関連させて説明できていない。

■ 指導の手立て

「立派」と思うところがどこなのか、そう考えたのはなぜか等を、生徒に質問しながら学習内容と関連付けて考えさせる。

(3) 「政治・経済」の学習評価の例

【単元の指導計画の例】(一部)					
単元名	現代経済の仕組みと特質 (14時間)				
単元の目標	経済活動の意義、国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、金融の仕組みと働きについて理解させ、現代経済の特質について把握させ、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察させる。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
評価規準	経済の発展を促進するための効率性の追求と国民福祉の向上で求められる公正さなど経済活動の在り方と福祉の向上との関連について客観的に考察しようとしている。	経済の発展を促進するための効率性の追求と国民福祉の向上で求められる公正さなど経済活動の在り方と福祉の向上との関連について、経済生活の変化など社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の経済に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。	公害防止と環境保全に関する問題、消費者に関する問題を情報の非対称性の観点から理解し、その知識を身に付けている。	
時程	学習活動	評価の観点			
		関	思	技	知
			学習活動における評価規準		評価方法
<p>【本時のねらい】 消費者に関する問題を、家計、企業、政府間の情報格差という情報の非対称性の観点から理解させるとともに、関連する諸資料を収集・選択し、具体的な消費者問題について考察させ、考察した結果を表現させる。</p>					
展開 (第11時)	<ul style="list-style-type: none"> 若者を相手とした悪質商法の事例をインターネット等で調べ、ワークシートにまとめる。 事例について自己と関連させながら考察し、結果をワークシートにまとめる。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 消費者問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。 具体的な消費者問題の課題について調べ、考察した結果を、自己と関連させながら適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート ワークシート
<p>※本時の評価の観点は2つとした。</p>					
<p>※学習内容と関連付けながら、調べた事例について整理するとともに、具体的な悪質商法への対応について考察させることをねらいとしたワークシート</p>					
<p>※思考・判断・表現及び資料活用の技能の評価の実際</p>					

【ワークシートの例と「おおむね満足できる」状況(B)と評価される例】

1 インターネット等を利用して、10～20代の若者を相手とした悪質商法の事例を調べ、次の間に答えなさい。

(1) あなたが調べた悪質商法の事例について簡単にまとめてみよう。

SNSで知り合った女性から「会員になって健康食品を友人に紹介すると、たった3ヶ月で月収10万円になる」と言われ、良い話だと思い、1本9,000円の健康ドリンクを2本購入し、会員になった。

(2) あなたが調べた事例は何と呼ばれる悪質商法ですか。

マルチ商法 (連鎖販売取引)

(3) あなたが調べた事例において、消費者を保護するためにどのような制度があるか答えなさい。

クーリング・オフ制度 (契約書面受領日、または商品の受領日のどちらか遅い方から起算して20日間は可能)

2 あなたは、どのようにすれば、あなたが調べた事例のようなトラブルに巻き込まれずにすむと思いますか。

「たった3ヶ月で月収10万円になる」という甘い言葉に惑わされず、契約するつもりがなければ最初からきっぱりと断ることが大切だと思う。

●1(1)～(3)について、収集した情報を適切に選択し、効果的に活用している。
【資料活用の技能】

●2について、具体的な消費者問題について、自己と関連させながら考察し、適切に表現している。【思考・判断・表現】

【「十分満足できる」状況(A)と評価される例】

○「2」への生徒の記載例

きっぱりと断ることはもちろんのこと、普段より消費生活センターなどから事例を多く知ることによって、自らの判断力を高め、危ういものには近づかない、おかしいと思ったら専門機関に相談するなど、様々な自助努力が必要だと思う。

●自己と関連させながら、学習した消費者問題への対応と関連付けて考察を深めている。
【思考・判断・表現】

【「努力を要する」状況(C)と評価される例と指導の手立て】

○「2」への記載例

しっかりとすることだと思う。

●一般的な感想に終わり、具体的に自己と関連させながら説明できていない。

■指導の手立て

何をもって「しっかりとする」と思ったのか等の理由や「しっかりとする」ことの意味を、学習内容と関連付けて考えさせる。

Topic

「道徳教育」について

◆ 高等学校における道徳教育については、各教科・科目等の特質に応じ、学校の教育活動全体を通じて生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探求し、豊かな自己形成ができるよう、適切な指導を行うことが求められている。特に、公民科の「現代社会」及び「倫理」には、それぞれの目標に「人間としての在り方生き方」を掲げており、これらを中核的な指導の場面として重視し、道徳教育の目標全体を踏まえた指導を行う必要がある。

■ 道徳教育 豊かな心を持ち、人間としての在り方生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとする教育活動

◆ 道徳教育の目標

- (1) 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う
- (2) 豊かな心をはぐくむ
- (3) 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る人間を育成する
- (4) 公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努める人間を育成する
- (5) 他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する人間を育成する
- (6) 未来を拓く主体性のある日本人を育成する
- (7) 道徳性を養う

ア 道徳性とは、人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすもの、人間らしいよさであり、道徳的諸価値が一人一人の内面において統合されたものである。

イ 学校における道徳教育においては、各教育活動の特質に応じて、特に道徳性を構成する諸様相である道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度などを養うことが求められている。

道徳的心情	○道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情 ○人間としてのよりよい生き方や善を思考する感情 ○道徳的行為への動機として強く作用するもの
道徳的判断力	○それぞれの場面において善悪を判断する能力 ○人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力
道徳的実践意欲と態度	○道徳的実践意欲：道徳的心情や道徳的判断力を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き ○道徳的態度：道徳的心情や道徳的判断力などに裏付けされた具体的な道徳的行為への身構え
道徳的習慣	○長い間繰り返して行われているうちに習慣として身に付けられた望ましい日常的行動の在り方

◆ 公民科における道徳教育の展開例

○ 倫理の単元「(2) 人間としての在り方生き方」の「ア 人間としての自覚」の「ギリシア思想」における道徳教育の例

目標：ソクラテスの生き方をもとに、人間としての在り方生き方を考える

指導過程	指導内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	前時の復習 目標の説明	○ノートを見ながら、ソクラテスの活動について確認する。	
展開	資料『クリトン』とワークシートをもとに、ソクラテスの死に関わる考え方についての説明	○資料『クリトン』とワークシートをもとに、脱獄を勧めるクリトンの発言の根拠となっている考え方を読み取る。 ○資料『クリトン』とワークシートをもとに、ソクラテスの考え方を読み取る。 ○クリトンやソクラテスの考え方について考えたことをワークシートに記入する。	○資料から、クリトンがソクラテスを説得するために述べている箇所を例示するなど、生徒の状況に合わせて援助する。 ○書き方のパターンを示すなど、生徒が書けるよう援助する。

【指導のポイント】
クリトンの脱獄する利益と脱獄しない利益を比較する考えやソクラテスの行為の善し悪しをもとに考えることなど、それぞれの人物の判断基準を明確にします。

【指導のポイント】
自分の考えのもととなる判断基準や価値観を記入させることにより、自己の道徳的判断力が意識されます。